

写真で見る参考史料

「丹生川上神社上社 旧境内、社殿」平成6年11月29日参拝



上社新社殿 平成 12 年 7 月 31 日参拝



「丹生川上神社下社」平成 6 年 11 月 29 日参拝

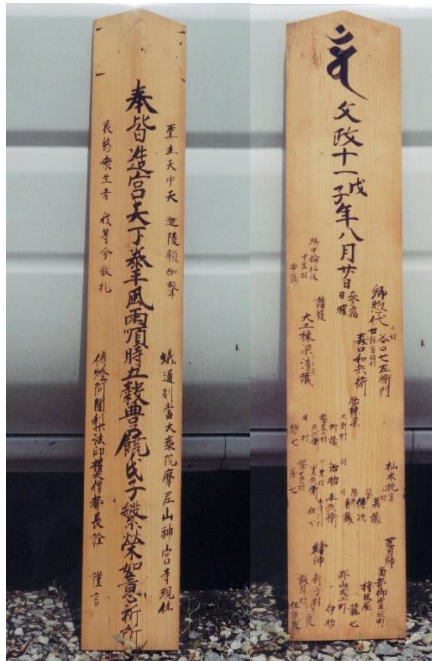




「丹生川上神社(中社)」平成19年撮影



中社本殿(文政 11 年[1829])平成 20 年撮影



「棟札」本殿檜皮

葺き替え時に撮影、平成 18 年

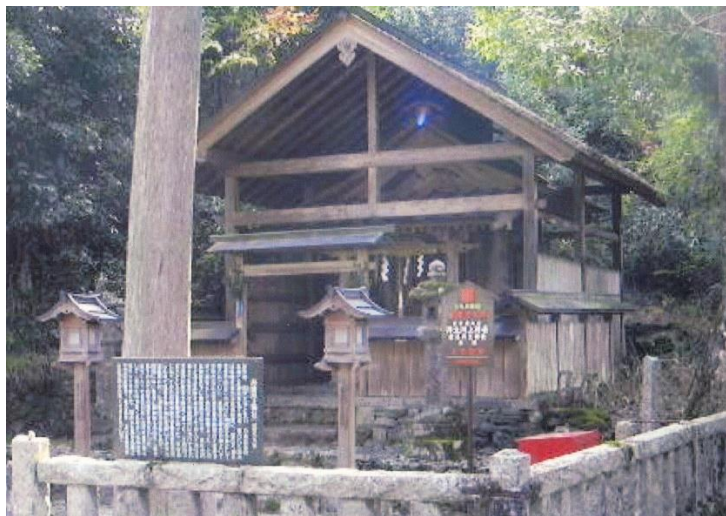
「石灯籠」(重要文化財)弘長 3 年(4 年説もある)[1262]肉眼では見えにくい(ほとんど見えない)



が「丹生...社」と書かれている。

「蟻通」と書かれた寛政 6 年(1794)の金属灯籠。大戦中の金属供給を逃れたことは幸い。平成 13 年撮影

中社摂社「丹生神社」本宮さんと呼ばれている。「大和志」掲載の「丹生神祠」二社のうちのひとつ元々はこちらが本社だというのが境内は狭小。御神像、慶安棟札、石灯籠はすべてこちらのものを移した。平成 12 年撮影



「宇陀市入谷^{にゅうたに}(元は丹生谷)丹生神社」松田氏はここが神武天皇親祭の丹生川上だとする。「大和水銀鉾山」の近く。平成 20 年参拝



宇陀市「雨師丹生神社」(式内社)この「雨師荘」を小川氏が支配していた。この『宇陀郡田地帳』が中社陞格の決定打となった。多くの『日本書紀』解説は神武天皇親祭の「丹生川上」はこの近辺とする。

平成 17 年参拝



社頭の「菟田川朝原伝承地碑」



五條市丹原「丹生川神社」(式内社)この神社の存在が「丹生川」そして「丹生川上神社」の存在の証明となる。

画像は「大日川丹生神社」ともウェブ上からの借用





「大日川丹生神社」「大和志」に掲載されている「丹生神祠」のひとつ





この「扁額」が丹生村の「丹生大明神」から流れ着いたとされるがこの話と「迫村の神社から鳥居が丹生村に流れ着いた」という話がまじりあっていると考えられる。

今日、「吉野離宮」は「吉野町宮瀧」が最有力 平成 22 年 5 月訪問





こちらは「丹生川上神社境内の吉野離宮碑」 森口奈良吉が唱えた。

